損保ジャパン記念財団 NEWs

SOMPO JAPAN FOUNDATION

●損保ジャパン記念財団賞　講演会・シンポジウムを開催
●自動車購入費助成　助成金の贈呈先決定
●ＮＰＯ基盤強化資金助成の募集（認定ＮＰＯ法人取得資金助成を新設）
●海外助成の募集
●損保ジャパン記念財団・福祉マネジメント研究会　シンポジウムを開催
●助成先訪問

発行者
公益財団法人損保ジャパン記念財団
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル　TEL：03-3349-9570　FAX：03-5322-5257
http://www.sj-foundation.org/　Eメール：sjf3340@sj-foundation.org

2013 Vol. 2

第14回損保ジャパン記念財団賞　講演会・シンポジウムを開催しました

７月27日(土)東京都千代田区のグランドアーク半蔵門にて、「損保ジャパン記念財団賞※」の受賞者記念講演会、シンポジウムを開催しました。研究者や学生、企業・各種団体の担当者など140名の方にご参加いただきました。

※「損保ジャパン記念財団賞」は社会福祉分野における優れた社会福祉学術文献を表彰する制度です。社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者、研究者の研究意欲を促進し、社会福祉の発展に寄与することを目的としています。



谷口 由希子　氏

まず第Ⅰ部では、「損保ジャパン記念財団賞」の受賞者、谷口　由希子氏（名古屋市立大学大学院准教授）が、受賞著書「児童養護施設の子どもたちの生活過程−子どもたちはなぜ排除状態から脱け出せないのか」について講演されました。子どもが生活の立て直しをできる要因を明らかにすることをテーマとし、５年という長期的なフィールドワークにより記述・分析していった過程をお話しされました。また、児童養護施設の中で子どもたちと生活する中で感じた児童養護施設自体の課題や地域から排除されていることについても触れられました。参加者からは子どもを取り巻く社会制度の見直し、施設での実践の見直しなどを考える機会となった、また谷口氏の熱意ある発言に触れ、これからのますますのご活躍を期待するといった声が寄せられました。

続けて第Ⅱ部では、シンポジウム「子どもを負の連鎖からいかに断ち切るか」をテーマにパネルディスカッションを行いました。３名のパネリスト（生活保護家庭の子ども達の支援者、児童養護施設での実践者、児童心理の研究者）の皆様から、それぞれのお立場でお話しいただきました。

参加者からは、残酷なネグレクトにもかかわらず、支援者が関わることで、社会人として成長できた過程に感動した、児童養護施設の運営の新しいヒントをもらった、コミュニティハウスの柔軟な取り組みや実践から知恵をもらった、実践から制度が変わることやその逆もあることがわかった、自分には何ができるのか考えたい、立場の違うシンポジストのご発言を聞けてよかった、学び多き時間を共有でき、有意義だった、などの感想が寄せられました。

【シンポジウムにご参加いただいた皆様】

コーディネーター：白澤 政和 氏（桜美林大学大学院老年学研究科教授）
パネリスト　：内田 伸子 氏（筑波大学監事・お茶の水女子大学名誉教授）
　　武藤 素明 氏（二葉学園統括施設長）
　　高橋 信也 氏（地域生活支援ネットワークサロン代表理事）
コメンテーター　：谷口 由希子 氏（名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部准教授）



シンポジウム

自動車購入費助成　助成先を決定しました。

2013年度自動車購入費助成金として、障害者に対する福祉活動などを行う９団体を対象に、合計約900万円の助成を決定しました。

自動車購入費助成は、障害者に対する福祉活動を行う団体にとってニーズが高い自動車購入の資金を支援する事業です。今年度は、募集対象を東日本地区（北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・栃木・群馬・山梨・新潟・長野・富山・石川・福井・愛知・岐阜・静岡・三重）として、2013年６月から７月にかけて公募したところ、162件の応募をいただき、以下の９団体に助成を決定しました。損保ジャパン記念財団では1999年に自動車購入費助成を開始し、昨年度までの13年間で、助成先は累計144団体、助成額は合計約1. 4億円となっています。助成先は以下のとおりです。

2013年度　自動車購入費助成　助成先一覧

都道府県 市	団体名	主な事業 ※事業の一部のご紹介です	代表者 （敬称略）	助成金額 （予定）
北海道 札幌市	特定非営利活動法人 **iCare ほっかいどう**	意思伝達装置の普及とALS患者へのコミュニケーション支援	杉山　逸子	100万円
北海道 夕張市	特定非営利活動法人 **あ・りーさだ**	廃校を利用した障害者スポーツの拠点づくりや地域交流促進	正木　英之	100万円
山　形 山形市	特定非営利活動法人 **アジェンダやまがた**	音楽療法を使った障害児の放課後ディサービスの提供	児玉　千賀子	100万円
栃　木 栃木市	特定非営利活動法人 **海がめ**	カフェ運営による精神障害者の就労支援	関口　房代	100万円
千　葉 千葉市	特定非営利活動法人 **EPO**	障害者乗馬や通所施設の運営による障害児の療育支援	小山　徹信	100万円
千　葉 千葉市	特定非営利活動法人 **NPO法人カフェ・バルコニーの家**	レストラン、弁当配達による障害者の自立支援	薮下　敦子	100万円
東　京 東大和市	特定非営利活動法人 **アダージョ**	手工芸、菓子製造の作業所運営による障害者の就労支援	鈴木　東吉	100万円
長　野 塩尻市	特定非営利活動法人 **おはな**	障害児の学童クラブ、障害者の自立支援・就労支援	深澤　慶子	100万円
愛　知 みよし市	特定非営利活動法人 **いきもの語り**	重度障害児のディサービス	岡　啓子	100万円

※助成金の贈呈式は、損保ジャパンの各地区本部または支店が助成先団体にて、開催する予定です。
　なお、本年度は助成決定後に上記以外の１団体から助成辞退がありました。

NPO基盤強化資金助成の募集

2013年度「NPO基盤強化資金」助成先を募集しています。従来から実施している「組織の強化」と「事業活動の強化」の助成に加え、本年度は「認定NPO法人」の取得資金助成のプログラムを新設しました。

２つのプログラムを通じて、地域の中核となり持続的に活動する質の高いNPO法人づくりを支援したいと考えています。

応募期間は2013年10月１日から11月15日です。詳細は、当財団ホームページに掲載していますので、是非、認定NPO法人にチャレンジしている団体や基盤の強化に取り組まれている団体にご紹介ください。

【概要】

1．「組織の強化」と「事業活動の強化」助成

「団体の基盤強化に結びつく事業に必要な費用」や、「組織や事業の基盤を強化するために行う新たな事業、あるいは既存事業の拡充・サービス向上に必要な費用」を助成する制度です。

●今回は、中部地区、近畿地区にある、社会福祉に関する活動を行う団体（特定非営利活動法人、社会福祉法人）を対象とし、原則として2015年３月末までに完了する事業が対象です。

●助成金額は１団体50万円上限（総額900万円）です。

●団体の基盤強化に貢献すること、地域課題の解決に貢献することなどを基準に選考します。

2．「認定NPO法人取得資金」助成

「認定（仮認定）NPO法人の取得に関する費用」を助成する制度を開始します。

●社会福祉分野で活動し、認定NPO法人の取得を計画している特定非営利活動法人を対象とし、2013年４月１日～2015年３月31日までに所轄庁に「認定（仮認定）」の申請を行うことが必要です。

●助成金額は１団体30万円（総額600万円）です。

●団体の過去の活動実績、認定取得に対する取り組み状況、認定NPO法人の取得後の活用計画などを基準に選考します。

海外助成の募集～ASEAN加盟国の社会福祉団体を対象に

ASEAN加盟国で社会福祉活動をする非営利団体を対象に2013年度「海外助成」の募集をしています。助成金額は１件あたり30～100万円とし、総額300万円の助成を予定しています。応募期間は2013年10月１日から11月15日です。詳細は、当財団ホームページに掲載していますのでどうぞご覧ください。

【概要】

損保ジャパン記念財団は、国内で実施している助成制度を発展させ、海外（特に開発途上にある国･地域）の社会福祉の向上を目的に、2010年度から「海外助成」を実施しています。

当助成は、募集対象国に所在する日本企業の現地駐在員の推薦にもとづき、募集対象国で社会福祉分野の非営利団体が行う活動を対象に助成するもので今年で４回目になります。

●募集対象国に所在する日本企業の現地駐在員を推薦者とします。

●ASEAN加盟国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）に本部がある、主として社会福祉分野で活動している非営利団体が対象です。

●助成対象団体が地域の社会福祉に資する活動（プログラム）を行うための資金を支援します。

●助成金額は１件30万円～100万円（総額300万円）です。



〈タイ〉

水牛セラピーなどのプログラムを通して、自閉症の子ども達の精神的な安定や身体能力の維持・向上に助成金が活用されています。



〈マレーシア ボルネオ島〉

知的障害児・者の支援をされている団体の活動に助成し実習や生活支援に必要な機材の購入にあてられました。

損保ジャパン記念財団・福祉マネジメント研究会シンポジウムを開催しました

10月12日(土)東京都新宿区の公益財団法人テクノエイド協会にて、「損保ジャパン記念財団・福祉マネジメント研究会」のシンポジウムを開催しました。福祉サービスを、提供するNPO、社会福祉法人等の経営者・管理者、研究・教育者など約30名の方にご参加いただきました。

福祉マネジメント研究会（主査：大橋謙策氏）では、マネジメント手法による社会福祉を支える人材教育について研究しており、その成果をとりまとめた「損保ジャパン記念財団叢書80号　福祉分野における社会企業の創業・展開と人材育成（平成24年３月）」を発刊しました。今回はこの叢書をもとに「ニーズ対応福祉サービス開発とNPOの経営ー福祉サービス開発の視点と方法ー」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

まず始めに以下①～④に則して、大橋主査から研究会の経過とシンポジウムの趣旨の説明を行いました。

①「社会福祉に普遍化」が意味するものと、地域福祉展開における社会福祉法人の位置・役割
②地域における新たな助け合い（住民と行政の協同による新しい福祉）について
③コミュニティーソーシャルワークの機能
④福祉サービス開発の視点と方法

続いて４名のパネリストの発表に移りました。まず池田さんから、全国の新しいサービスや創造的な動きについての紹介があり、戸枝さんからは住民のニーズをキャッチし、組織経営として対応し、サービスにつなげているかの実践を紹介していただきました。越智さんからは社会福祉協議会と行政、商工会、観光協会、学校など地域全体が連携して成功している事業の事例を紹介いただき、最後に中島さんから「安心生活創造事業」の成果についてご報告いただきました。

福祉サービスは、特定の限られた人々が利用するサービスから、全ての国民を対象に、ライフステージごとに個人の尊厳が尊重され、豊かな生活を送るためのサービスとして普遍化され、さらなる創造的なサービス開発が求められる時期に来ています。今回のシンポジウムは、福祉サービス開発の担い手の皆様と日本各地で展開されているニーズ対応福祉サービスの開発や創造的な取り組みを共有するよい機会となりました。

【シンポジウムにご参加いただいた皆様】

パネリスト　：池田 昌弘氏（特定非営利活動法人 全国コミュニティーライフサポートセンター代表）
戸枝 陽基氏（社会福祉法人むそう理事長）
中島 修氏　（文京学院大学准教授、前厚生労働省社会・援護局 地域福祉課地域福祉専門官）
越智 和子氏（香川県琴平町社会福祉協議会事務局長）
コーディネーター：大橋 謙策氏（公益財団法人テクノエイド協会理事長）


シンポジウム

助 成 先 訪 問

子育て支援ワーカーズ プチトマト・喜多 洋子さん（北海道札幌市・2007年NPO法人設立資金助成先）


cafe亜麻人


喜多 洋子さんと

自分たちの住む街で子育てをしたい！というママ達の願いから、1995年にプチトマトは誕生しました。組織を継続して安定させ、当事者の声を行政や社会に伝えていきたいと考え、2007年に当財団のNPO法人設立資金助成を受け、特定非営利活動法人を取得されました。代表の喜多さんは、「助成金もさることながら、自分たちの活動が認められたことがうれしく、期待に応えて頑張ろう！という気持ちにつながりました。」と笑顔で話されます。

その後も、「心豊かに子育てできる地域社会をつくること」を目標に活動し、2009年には商店街の空き店舗事業の一環として３世代交流ひろば「cafe亜麻人」を開設されました。子どもから高齢者、障害のある人も集まれる共生サロンとして、町内会や商店街、子育て中のママや大学生など地域の力をかりながら運営されています。2013年には地域活性化と子育て支援への取り組みが評価され、札幌市の「地域子育て支援拠点事業」にも指定されました。

喜多さんの「双子の子育てをする中で地域の人たちに助けられました。ちょっとした手助けがありがたく、地域に子育て支援ができる場所があればいいな。」という思いで始まった活動は、多くの人や助成などに支えられ成長されています。

（訪問者：損保ジャパン記念財団専務理事・岡林　2013年９月20日）